



空に舞った人と凧 人々の目を釘付け

白根凧合戦協会協力・人間凧



十月二十三日、鷲巻地内の未開通の広域農道上で、人間を乗せた大凧が見事に空に舞い上がりました。白根市で人間を乗せた凧が揚げられたのは、昭和五十七年以来、十七年ぶりのことです。

始まりは、どんな夢でもかなえようというテレビ番組の企画からでした。凧に乗ることを希望したのは、ナイジェリア出身のデビットソン・ノルワさん（写真囲み）。「人がやっけないことをやってみたかった」と、凧合戦協会の人たちと共に大凧作りから参加しました。

大凧の大きさは約六十畳。立ち上げにはクレーン車が用意され、この日、凧合戦協会の呼び掛けに集まった凧の揚げ手は、大凧・巻凧組の有志などおよそ百五十人でした。

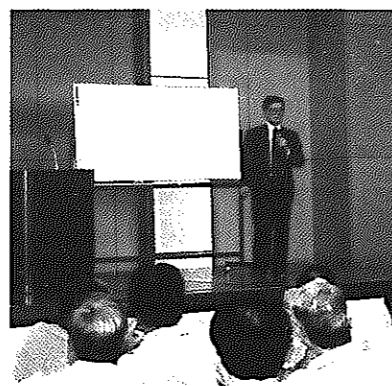
午後三時三十分、大凧は空に舞い上がり観衆の目を釘付けにしました。無事に着地すると凧の揚げ手と集まった観客から盛んな拍手を浴びていたノルワさん。「最高でした。機会があればまたチャレンジしたいです」と感動が冷めやらない様子でした。

白根凧合戦協会会長の本間さんは「以前凧に人間を乗せた実績を買われ、テレビ局から依頼がありました。白根の凧の技術をお見せしたかったこと、今後の発展を込めて引き受けました。成功の自信はありました」と話しています。

ちなみに、大凧の絵柄の「J」の文字の一部がくり抜かれ、ノルワさんのぞいているのが分かります。

認定農業者の政策集団誕生

十月二十二日、カルチャーセンターで認定農業者の研究集会と認定農業者会議設立総会が行われました。



21世紀型地域農業のあり方を探る研究会・白根市認定農業者会議設立総会

集会では、十六年にわたり農熟・農村塾の活動に携わっている、東京大学名誉教授の今村奈良臣さんが講演。「二十一世紀の農業は花形産業である」と独自性を持った農業経営や人材の必要性を説いていました。

またこの日は、認定農業者会議設立総会が併せて開かれ、会則の承認や役員選出などが議決されました。市内認定農業者の有志およそ百三十人が、魅力ある農業組織を目指して調査研究などを行う政策集団が誕生。今後、白根市農業の活性化を進めていくことが期待されています。

館に響く生演奏

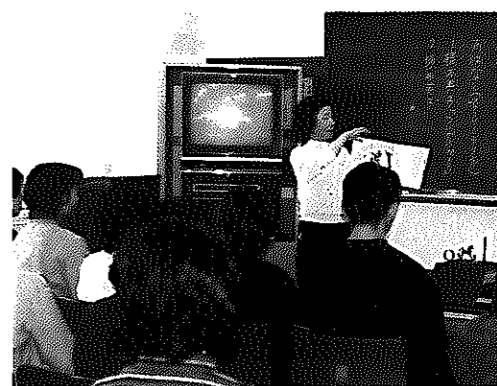
しろねライブアップコンサート



十一月六日、しろね大凧と歴史の館で第四銀行白根支店主催のチャリティコンサートが行われました。これは、市や市民のために何か役に立つことはないだろうかという今年度の春先に企画され、実現したものです。バイオリンやマンドリンの演奏など、アマチュア音楽家らによるステージが繰り広げられた手作りのコンサート。最期は会場をうめた二百人以上の観客と「川の流れるように」を大合唱し盛り上がりました。なおこの日の収益金は、市の文化事業に寄付されました。

まちの話題

「絵本」と「おはなし」の楽しさを 第一回おはなし講習会



九月、十月にわたっての三日間、中央公民館で白根図書館主催の「第一回おはなし講習会」が行われました。この講習会には、「子どもたちに、良い本を選んで読んであげたい」「白根学習館の図書館に設置される『おはなしのへや』での『おはなし会』や『絵本のじかん』で、ボランティアとして活動したい」と、三十一人が参加しました。

お母さんにもリラックス 子育てを考える講演会



育児真っ最中のお母さんたちを対象に、子育てを考える講演会が開かれました。十月二十一日は、青年教育センターで新潟県落語協会長の水都家艶笑師匠が講演。師匠の子育ての体験を交えた話には、会場からは大きな笑い声が上がっていました。

高まる自主防災意識 大通自治連合防災団



十月二十四日、大通自治連合防災団が住宅防火診断と応急手当の講習会を行いました。これは、自分たちの手で地域や家庭の安全を災害から守ろうと、自主防災組織として取り組まれているもの。二年目の今回は、家庭からの出火防止と三角巾を使ったけがの応急処置など、五十三人の参加者が講習を受けていました。

技術を磨いています 冬 囲い講習会



十月二十六日、受注の増える冬囲いの季節を前に市内の会社の庭を会場にして、白根地域シルバークンサー主催の「冬囲い講習会」が行われました。参加したシルバークンサーと一般市民の七十人は、講師の渡辺昭一郎さん（三条市）から縄の結び方を習い、挑戦。「難しい」と話しながらも懸命に取り組んでいました。

TOPICS